

美原記念病院ブレインバンクにおける臨床検査技師の活動について

諏訪部 桂¹⁾、田野 光敏¹⁾、青柳 真一¹⁾、佐藤 愛海¹⁾
高尾 昌樹²⁾、美原 盤³⁾

- 1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 検査科
- 2)埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科・神経内科
- 3)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

【はじめに】

ブレインバンクは、剖検によって採取された中枢神経系組織を凍結保存し、提供依頼のあった研究機関へ供与する研究推進支援型のシステムである。当院では平成19年度のブレインバンク発足以来、臨床検査技師がブレインバンクのさまざまな業務に関与し、この運営に必要不可欠な存在となっている。そこで今回、当ブレインバンクにおける臨床検査技師の活動内容を報告する。

【活動内容】

院内で剖検依頼があると、検査技師に連絡が入り、死亡時MRI画像の撮影を手配する。外部医療機関からの剖検依頼の場合はMSWとともに自院の救急車で遺体搬送(迎え・送り)を行う。剖検は医師1名と検査技師2~3名で実施し、採取した中枢神経系組織の所定部分を-80℃凍結試料用として処理・保存する。ホルマリン固定後の組織は型どおりのブレインカッティングを経て神経病理診断に至る。研究機関への凍結試料の提供は依頼を受けたブレインバンク責任医師とともに選定して実施する。また、外部医療機関で実施困難な標本作製・神経病理診断にも対応している。このほか、倫理委員会申請手続き、科学研究費補助金事業などに関する書類整備や研究班会議出席、献体いただいた患者・遺族へ感謝する「感謝の会」の企画運営、プリオン病患者においては生前にサーベイランス委員会登録に加え、遺伝子解析や特殊蛋白検査を専門機関へ提出など多岐にわたり活動している。

【まとめ】

ブレインバンクに求められる機能は生体試料の蓄積と提供であるが、実際の運営には業務は多岐にわたり、臨床検査技師が活躍できる場が多々ある。近年、「脳内タウイメーキング用放射性薬剤[11C]PBB3を用いた画像病理相関に関する研究」や「百寿者および超百寿者調査」などの研究協力依頼もあり、今後ますます活動の域が広がっていくことが想定され、ブレインバンクの運営における臨床検査技師に期待される役割は大きいと思われる。